

評価項目		方策と手立て	評価指標	自己評価	外部評価	学校関係者評価委員の方から	これからの改善策と手立て
たくましい体	体力の向上を図る	体力向上プラン作成による実態・現状把握	体力テストの目標達成 (D・Eの児童を男子9%以下、女子15%以下)	2	2.8	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の影響も大いに関係してくると思うが、全体的に体力の低下がみられるのはよくない。帰宅後や週末は外で遊ばず、家の中で過ごすことが多い今、何かしらの目的がないと体を動かすことは少ないと思う。また、体力の低下と姿勢の悪さは大いに関係していると思う。姿勢を保てる程の筋力がないせいだと思う。また、ゲーム等に夢中のあまり、深夜まで遊び、朝が起きられない、朝ご飯が食べられないという負のスパイラルが起きる要因になってくると思う。 コロナ禍の中で、身体を思いっきりたえる環境にたく身体能力は落ちているのが全国の様子だと思う。学校行事も省くことが多かったのではないかと。コロナのせいにはいけないといっても無理だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 本年度の課題をもとに、実態に即した「体力向上プラン」を作成し、全体的な体力の向上を図っていく。 運動や遊びの日常化をさらに図るために、週1回「みんなで遊ぶ日」などを設定し、昼休みの外遊びを奨励していく。
		「楽しい体育の授業」の実践 運動や遊びの日常化(一校一運動の実践)	体育の時間や昼休み時間に楽しく運動する子 90%以上				
	保健・安全教育の充実を図る	生活リズムチェックの実践・指導・見届け 歯の治療の促進(保護者啓発も含む) 実践力の身につく安全指導、避難訓練	姿勢に気をつけている生活している子 85%以上 「早寝・早起き・朝ご飯」に取り組む子 85%以上 むし歯治療率 80%以上 自ら自分の身を守ろうとしている子 90%以上				
食育の充実を図る	食育の推進 給食指導の充実	栄養のバランスに気をつけて食事をしている子 85%以上	<ul style="list-style-type: none"> 食育に関する掲示物や家庭科の授業を活用したり、小中連携の取組でも「食育便り」を発行したりして、食の重要性の意識を高めていく。 				
豊かな心	望ましい基本的な生活習慣・態度を身に付ける	自己指導能力の育成(計画的な全校SSTの実践他)	いじめ問題や生徒指導に積極的に取り組んでいる 90%以上	2	2.8	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動に取り組む子が多いのは、素晴らしいと思う。ノートク清掃も心掛ける子が多いので、引き続き頑張してほしい。 自らあいさつができる子が前に比べて少ないように思う。学校内では、保護者や地域の方を見かけた際には、進んであいさつをしてほしい。学習環境の中で、教え合う光景を見るのができ、とてもよいことで、友人関係もうまくいっている。 生活面を大切にされる担任の様子、個人への気配りや指導も見られた。 個性や個人の欠点も認め合って成長していくことを大切に形成的評価はあまり尊重したくない。親に精神的な余裕がなくなってきているし、生活面と親との関係を大切に考えてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> Q-Uテストを活用するなどし、児童の自己肯定感を高め、児童一人一人が居心地のよさを感じる学級集団づくりを行っていく。 上学年を中心に、朝のボランティア活動を呼びかけ、自主的に取り組めるようにする。 キャリアパスポートを有効的に活用し、目的意識をもたせるようにする。 様々な機会を通じてあいさつの必要性について指導し、学校や家庭、地域へとあいさつ活動が広がっていくようにする。 縦割り清掃、「ノートク清掃」に取り組み、よりよい清掃の在り方について指導していく。
		自主的な学級の係活動や全校ボランティア活動の推進 キャリアパスポートの有効的な活用	「学校ボランティア」に取り組む子80%以上				
	規範意識を育てる	いつでも、どこでも、誰にでも大きな声での挨拶・返事 梅北小「よい子の約束」の指導 ノートク清掃の指導(師弟同行)	自分から明るいあいさつや返事ができる子80%以上 きまりを守って生活している子 80%以上 「ノートク清掃」に取り組む子 90%以上				
思いやりの心を育てる	道徳の時間、学級活動の時間の充実 人権教育(自尊感情、他者理解)の充実 「自分がされていやなことはしない。」ことの励行	友達と助け合って生活している子 90%以上 「自分がされていやなことは絶対しない」と心がけている子 90%以上					
自ら考える力	学力向上を図る	「学習のルール」の指導の徹底	「学習のルール」を守っている子 80%以上	3	3.0	<ul style="list-style-type: none"> 学習に意欲的に取り組む姿勢が見られ、素晴らしいことだと思う。今後の時勢を考えると、タブレットを活用した取組をもっと進めてほしい。 パソコンやゲームが普及する世の中において、読書する児童が多いのもとてもよいことだと思う。本しか味わえない楽しみ方もあるのだ、もっと親しんでほしい。 家庭学習において保護者との認識の差が大きい点が気になる。 生きる力の基礎を目指して先生が工夫して分かる授業を目指して努力していけばすぐに結果が出なくてもよいと思う。 先生方もものびのびと生徒と交わっていただくことが将来生きて働く力になると思う。 読書教育では、自分の好きなジャンルを見つけ興味を持つことが大切。読書量も大切だが、心に残るよい本を選択する力がよいと思う。親も読書する力を見せるべき、多忙なため親の読書量は少ないと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初に「学習のルール」について指導するとともに、くり返しの指導を通して、定着化を図る。 様々な校内研修を計画的に実施し、4つのチェックポイントやICTの活用による授業改善について研修を深めていく。特に、平均をやや下回る児童にも分かる授業を展開していく。 より対話的な学びの在り方の研修を通して、児童が相手意識や根拠をもった表現ができるようにする。 ルールに基づきながら、タブレットPCを児童に積極的に活用させながら、児童に必要なICT活用能力を育てていく。 校内の図書室だけでなく、「くれよん号」「ひばり文庫」も活用しながら、より多くの本に親しめるようにし、様々な機会を通じて、子どもの読書意欲を高める場を工夫していく。 「読み聞かせボランティア」の方々や図書館サポーターに協力をいただき、様々な本に触れる機会をもてるようにする。 家庭学習や宿題の在り方について職員間で共通理解を図り、年度当初の参観日の懇談時に保護者と確認し、習慣化を図っていく。
		落ちついた学習環境の工夫(雰囲気づくり)授業改善の「4つのチェックポイント」を意識した授業の展開	めあて達成を目指して意欲的に学習する子80%以上 CRTテスト全国平均以上 60%以上 県・全国学力調査 平均以上 分かるまで、できるまで学習する子 80%以上				
	表現活動の質の向上を目指した授業づくり(昨年度までの主題研の継続) ICTの段階、ステップ0、ステップ1の達成をめざす教育活動の実践	相手意識をもって聞いたり表現したりすることができる子 80%以上 ステップ0の達成学級 100%					
読書教育を推進する	図書室の積極的な活用と内容の充実 家読(親子読書)の推進 くれよん号やひばり文庫の積極的な活用 計画的な読み聞かせ活動の推進	年間図書貸し出し数(一人100冊、全体14200冊) 読書量調査の結果が、昨年度を上回る 進んで読書に親しむ子 80%以上					
家庭学習の習慣化を図る	中郷中ブロック小中一貫学習習慣ガイドの活用 発達段階に応じた家庭学習内容の提示	家庭学習の習慣が身につけている子 80%					

評価項目	方策と手立て	評価指標	自己評価	外部評価	学校関係者評価委員の方から	これからの改善策と手立て	
地域との連携	学校運営協議会の充実と地域と共にある学校づくりを推進する	中郷地区めざす児童生徒像「地域に誇りをもって、夢に向かって、明るく元気に努力する中郷の子ども」の具現化を目指した3つの具体的方策の推進	学校運営協議会が計画的に実施されている 90%以上	2	3.0	<ul style="list-style-type: none"> ○ コロナ禍による行事やイベントの自粛によって思うように参加できなかったり実施できなかったりは仕方ないことだと思う。来年度は、今年度よりもう少し対策を考えながら取り組めるようにしたいと思う。 ○ 福祉協議会が主催する敬老の日「お元気じゃひか通信」に全校で取り組んでいただき、中郷地区全域に配付されたので、感謝された。このコロナ禍の中で児童のハガキは心が癒されたとのことだった。協力に感謝する。 ○ いろいろなボランティアや専門家を学校に招いて授業が取り組まれている。活動の様子を写真で見せてもらい具体的に分かり、うれしかった。コロナ禍で地域の行事も中止になり残念で子どもたちの思い出も少ないだろう。親が多忙なため、3世代交流に消極的な意見がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 計画的に学校評価を行うとともに、中郷地区学校運営協議会(年5回)の充実を図り、共通の取組を進めていく。 ○ 今後もコロナ禍のため、外部人材の活用が思うようにできないことが想定されるが、学習支援の必要な内容については、連絡調整し、地域のよさを生かす授業や学習支援ボランティアの活用を積極的に進めていく。 ○ ホームページの更新に努めるとともに、必要に応じて学校からの文書案内を行い、積極的な情報の発信を行う。
	地域素材の活用や交流を通してのふるさと学習の充実を図る	地域を生かした学習の充実 学校支援地域本部(学校支援ボランティア)の活用 地域貢献活動の実施	地域人材や資源が教育活動に活用されている 85%以上 学校支援地域本部(学校支援ボランティア)の活用 年間1単元(題材)以上 地域の行事に積極的に参加している子 60%以上				
	情報の積極的な発信と家庭・地域・関係機関との連携する	積極的な情報の発信(ホームページや学校だより等) 参観日等の積極的な呼びかけとPTA活動の充実	学校だよりやホームページによる啓発がよくなされている 85%以上 参観日や学校行事の参加率 85%以上				
	学校運営協議会による地区合同の取組	地域に誇りをもつ 夢に向かわせる 明るく元気に	学校支援地域本部(学校支援ボランティア)の活用 ノーメディアウイークの実施 学力向上のための小中連携強化 9ヶ年を見通した学習習慣ガイドの活用 学校・地域によるあいさつ運動 小中合同あいさつ運動				

※ 自己評価→各種調査結果や児童の保護者のみなさま、地域のみなさまからのアンケート集計結果、日頃の観察等をもとに学校が採点した評価です。
 ※ 外部評価→学校が作成した自己評価書(項目ごとの評価、評価に対する手立てや方策、今後の改善策等)に対して、学校関係者評価委員の方からいただいた評価です。